

ドラマの配役、私に選ばせて下さい

産科部長 北村 公也

ここ数年産婦人科医を主人公とした、ドラマ、映画がいくつか作られています。4月からはNHKで火曜日夜10時から『マドンナ・ヴェルデ』の放送が始まりました。

『チーム・バチスタの栄光』の著者である海堂尊氏の原作で、代理母出産をテーマとしたドラマです。かつて不妊症治療に携わっていた現役産婦人科医の私は、「ここは違う」「ここはおかしい」と、産婦人科医の目でドラマを見てしまうのですが、今回は違った目線から登場人物評価を試みたいと思います。

(この記事が掲載される頃にはドラマは終わっているかもしれませんが)

1.山咲みどり(松坂慶子):55歳の主婦、このドラマの主演。一人娘で産婦人科医の曾根崎理恵の願いで代理出産を引き受ける。

→こんなに美しいままで、おっぱいも大きいままの55歳の女性にはお目にかかった事はありません。おそらくホルモン補充療法を受けていたに違いない。興味のある方は婦人科外来へ相談を。



2.曾根崎理恵(国仲涼子):帝華大学の産婦人科。病気で子宮を摘出

した自分のかわりに、母に代理出産を依頼する。

→こんなに可愛く、なんでもできる女医さん。私の部下に是非とも欲しいです。この件で大学を首になったら当院で働いてもらえませんか?院長、事務長、今から交渉宜しくお願い致します。

3.清川吾郎(勝村政信):帝華大学医学部産婦人科学教室准教授。→原作では、野心家で手術の腕が高く、プレイボーイの設定。ちょっと原作と配役のイメージが違いますね。むしろ俵○副院長の方がイメージにぴったりです。

4.屋敷教授(本田博太郎):帝華大学医学部産婦人科学教室教授。代理母出産には否定的。

→あの、冷静沈着、絶対に笑わない教授のモデルは現日本産科婦人科学会理事長の吉村泰典先生に違いない。(過去に慶応からの派遣で当院へ来ておられた事も有ります。)吉村先生いつも怒った顔ばかりしていないで下さい。当院では中○事務部長のイメージでしょうか。

この文章を書いている時に、次回作が林真理子作の「下流の宴」、5月31日から始まるとの情報が入りました。フリーターで医者を目指す不細工な女の子、宮城珠緒の役は「柳原可奈子」さんが、ぴったりかと思うのですが如何でしょうか? NHKさん、今度配役に迷った節には是非とも私に相談を。

やさしい 疾患手帳

薬疹 ~昔から飲んでいる薬なら安心!?!~

皮膚科副部長 金林 純子



Profile

かねばやし じゅんこ
氏名/金林 純子

- 所属…皮膚科 ●役職…皮膚科副部長
- 専門分野…皮膚科一般
- 自己PR…皮膚のことならお気軽にご相談ください。
- 趣味…映画鑑賞
- 星座…しし座 ●血液型…B型

残念ながら、いま飲んでいる薬がこの先も安全に飲めるのかを予測することはできません。不幸にして起きた症状を最小限にとどめるには、疑わしい薬を速やかに中止することが大前提なのですが、ある種の薬は中止しても皮疹がどんどん増えて大やけどのようになってたり、ひどく内臓を痛めたりして生命を脅かすこともあります。「薬疹かも?」と思ったら、是非皮膚科を受診してください。



薬疹とは、薬を飲んだり注射したりすることで生じる発疹のことで、とりわけ問題となるのがアレルギー性薬疹です。

薬に限らず、ヒトは異物を体内に取り込むたびに「怪しいやつがきたな」と認識して次回の侵入に備えます。この学習の積み重ねによって戦闘態勢が整った状態を“感作(かんさ)”と呼び、感作が成立した状態で異物が取り込まれると戦闘開始、つまり発熱や皮疹などを生じるようになります。ですから、よく使われる頭痛薬でも、便秘薬でも、貼り薬であっても、感作が成立しさえすれば薬疹が生じ得ます。

感作に必要な期間は、短いものでも10日前後といわれていますので、例えば昨日初めて飲んだ薬のせいで薬疹が今日でてくるとことはありません。また、感作に必要な期間が長い薬では、服用を始めて10年して薬疹がみられるということも珍しくありません。薬疹も、突然ある時期から花粉症に悩まされるようになるのと同じ仕組みなのです。

赤十字の使命に基づき救護班を派遣 ~東日本大震災~

当院は、地震発生日の3月11日から救護班を派遣、6月1日までに合計6班43人が、岩手県釜石市、岩手県大槌町、宮城県石巻市などの避難所・仮設診療所等で救護活動を行いました。

主な活動内容は、仮設診療所や避難所での診療、石巻赤十字病院への支援など被災地の医療ニーズにあった活動を行いました。

また、5月13日には院内で2回目の救護活動報告会を実施し、4月6日から派遣された浮海総合内科部長(医師)が、石巻赤十字病院で活動中、大規模余震に見舞われ発生から多くの傷病者を受入れた体験を説明しました。

当院では、今後も被災地の医療ニーズに応えるべく継続的に救護班の派遣を行っていきます。



【大規模余震で次々と搬送される人たち】

多くのボランティアの方が当院を支えています

当院のボランティアとして活動に参加していただいている方が、ここ2~3年で増えているとともに、活動が多様化・活発化しています。当院ボランティアは、「ボランティアサークル『陽だまり』」「浜北赤十字奉仕団」「小原流いけばな



サークル『渥美教室』」「浜松東年金受給者協会浜北支部女性部」の4団体112名で、主な活動として、リハビリ患者送迎、自動精算機案内、衛生材料作製、花壇の植栽・手入れなどを行っています。

ボランティアの多くは地元の方で、2階のボランティア室や花壇には毎日、たくさんの方が活動しています。

また、5月19日にはボランティア総会が開催され、表彰や活動報告、講演会などを行いました。

世界赤十字デーキャンペーン開催のお知らせ

浜松赤十字病院では、下記日程により今回の東日本大震災での救護活動報告などを行います。すべて無料で実施しますので、お気軽にお越し下さい。

- 日 時:平成23年6月25日(土) 13:00~17:00
- 場 所:サンストリート浜北 1階イベント広場 〒434-0041 静岡県浜松市浜北区平口2861番地

【イベント内容】

救護活動及び義援金の報告 看護相談 血圧測定 薬剤相談 栄養相談 体脂肪測定 献血 子供たちが救護服を着ての写真撮影 バルーンアート 救護活動DVD放映 救護活動パネル展示

【お問合せ】

浜松赤十字病院 企画課 電話 053-401-1111

